

立花：シスメックスの立花でございます。

2025 年 3 月期第 1 四半期の決算概要についてご説明いたします。

開示区分の変更について



報告セグメントの変更点

1. 報告セグメントを「所在地別」から「統括会社別」に変更
※IFRSが要請するマネジメントアプローチとの整合性の向上
2. ロシアを管轄する統括会社をEMEAからアジア・パシフィック（AP）へ変更

開示区分の変更による主な影響

変更影響のある主な資料および箇所		報告セグメント変更 (所在地→統括会社)	ロシアの統括会社変更 (EMEA→AP)
有価証券報告書 決算短信	セグメントP/L	変更あり	変更あり
	地域別売上高	—	変更あり
Financial Data	セグメントP/L	変更あり	変更あり
決算プレゼンテーション Financial Data	地域別売上高	—	変更あり

2

2 ページをご覧ください。初めに、この第 1 四半期から行った開示区分の変更についてご説明いたします。

一つ目は、報告セグメントの変更で、昨年度までは関係会社の所在国を基準とする所在地別で開示しておりましたが、今年度からは、関係会社を統括する会社を基準とする統括会社別の開示に変更いたしました。

これは、IFRS が求めるマネジメントアプローチとの整合性の向上、つまり当社の業績管理の実態に合う形に変更するということで、例えばドイツにあるパルテックやアイノスティクスは、従来の所在地別では EMEA に区分されていましたが、業績管理の実態としては日本の本社側で統括していましたので、変更後は EMEA 統括というセグメントではなく、本社統括というセグメントに含まれることになります。

もう一つの変更点は、ロシアを管轄する統括会社を従来の EMEA から AP に変更いたしました。当社は医療に関わる製品・サービスを提供しているため、ロシアにおいても人道的観点から、当社の検査機器を使用いただいている病院に対する試薬の供給や保守・サービスを継続しています。ただ

し、日本をはじめ、各国が行っているロシアへの輸出禁止規制に該当する品目は一切供給しておりません。

一方、ロシアの現地法人のマネジメントにつきましては、従来、ドイツの EMEA 統括拠点からロシアのチームに対する試薬の供給や学術サポート、保守、サービス・サポート、管理面でのサポートなどを行ってまいりましたが、ドイツでの各種手続きが複雑化していることや、ドイツとロシアの拠点間のコミュニケーションが難しくなったため、最低限のサポートを継続するために、シンガポールにある AP 統括拠点からサポートすることに変更いたしました。

これらの変更による各種決算関連資料への影響は下の表に記載のとおりですので、一つ一つのご説明は省略させていただきますが、これからご説明させていただく第 1 四半期の決算概要のプレゼンテーションにおいては、一つ目の報告セグメントの変更の影響は全くなく、従来と同じ見方をしていただければと思いますが、二つ目のロシアが含まれる地域を EMEA から AP に変更した点は、地域別売上高の各ページの中に注記しております。

エグゼクティブサマリー



第1四半期実績

過去最高の実績、増収増益を達成 売上高・営業利益・四半期利益ともに大幅伸長

- 売上高 : 117.4%
- 営業利益 : 126.1%
- 四半期利益 : 128.0%

- 海外地域におけるシェア拡大や検査需要増加などにより、試薬が大幅伸長
- 日本のメディカルロボット事業の伸長もあり、全地域で増収を達成、ビジネスは好調に推移

2025年3月期 業績予想

第1四半期は想定とおりに進捗、上期・通期業績は計画達成を見込む 成長戦略に基づき各地域の施策を進め、グループの2桁成長を達成

5

5 ページをご覧ください。エグゼクティブサマリーです。

第 1 四半期の業績は、過去最高の実績で、売上高・営業利益・四半期利益のいずれも、記載のとおり、大幅な増収増益となりました。全地域で増収を達成しましたし、利益面でも 20% 台後半の非

常に高い伸び率となり、今期スタートの第1四半期として非常にポジティブな立ち上がりとなりました。

第1四半期の実績は社内想定どおり進捗しており、上期および通期の業績は計画達成できると見込んでおります。

決算総括（対前年）



(億円)	2025年3月期1Q		前年同期		前年同期比
	実績	構成比	実績	構成比	
売上高	1,119.4	100%	953.5	100%	117.4%
売上原価	519.0	46.4%	449.4	47.1%	115.5%
販売費及び一般管理費	360.1	32.2%	301.4	31.6%	119.5%
研究開発費	73.5	6.6%	71.3	7.5%	103.1%
その他の営業損益	0.7	0.1%	1.4	0.2%	51.7%
営業利益	167.4	15.0%	132.7	13.9%	126.1%
親会社の所有者に帰属する四半期利益	110.3	9.9%	86.2	9.0%	128.0%

- **売上高** : APが2桁伸長するなど全地域で増収、過去最高を達成
- **営業利益** : 販管費は増加も、原価率改善および増収により大幅増益、過去最高を達成
 - ✓ 為替の影響 売上高 +92.1億円、販管費 +27.1億円、営業利益 +23.8億円
 - ✓ 前年同期為替レート適用の場合 売上高 107.7%、販管費110.5%、営業利益 108.1%
- **四半期利益** : +28.0%の増益 為替差損益: +13.8億円（前年同期比+5.2億円）



7

7ページをご覧ください。決算総括です。

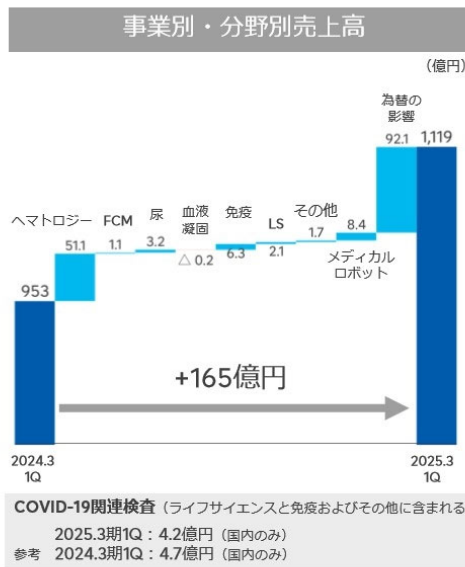
全地域において好調なビジネスにより、売上高は17.4%増と高い増収を実現し、売上原価率も0.7ポイント改善したことにより販管費増をカバーし、営業利益は26.1%増、四半期利益は為替差損益のプラス効果もあり28%増となり、大幅な増収増益を実現しました。

為替は、右下に記載のとおり、各通貨とも円安に推移し、中段に記載のとおり、為替の影響を除いても、売上高・営業利益ともに伸長し、増収増益となっています。

なお、税率は35.3%、前年同期と比べて0.4ポイントアップでした。

売上高から営業利益までの詳細は、あとのページでご説明いたします。

売上高の増減要因（事業別・分野別）



XRシリーズの効果や新興国の伸長などでヘマトロジー分野が好調に推移

(億円)	2025年3月期1Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	為替影響を除く
売上高	1,119.4	100.0%	117.4%	107.7%
ヘマトロジー	706.5	63.1%	119.2%	108.6%
FCM	8.2	0.7%	128.4%	117.4%
尿	89.2	8.0%	114.8%	104.1%
血液凝固	146.0	13.0%	106.9%	99.8%
免疫	46.6	4.2%	122.5%	116.5%
生化学	8.7	0.8%	110.5%	105.4%
ライフサイエンス	52.3	4.7%	113.5%	104.5%
その他	50.2	4.5%	112.1%	103.0%
ダイアグノスティクス事業	1,108.0	99.0%	116.6%	106.9%
メディカルロボット事業	11.3	1.0%	389.7%	389.7%

8

8 ページをご覧ください。事業別・分野別の売上高です。

右から 2 列目の円ベースを見ていただくと、全分野で高い伸長率となっています。

ヘマトロジー分野は、インドをはじめとする新興国における高い伸長率がけん引するとともに、先進国は堅調に推移し、左のグラフのとおり、増収に大きく貢献しています。

尿分野、免疫分野、ライフサイエンスも増収を達成し、FCM 分野についても 2 桁伸長により規模が大きくなってきました。

一番右の為替影響を除く前年同期比で、血液凝固分野は 99.8%と横ばいとなっていますが、前年度に日本の機器売上が好調であったことの反動や、中国で現地生産化した CN シリーズの出荷が 6 月に遅れたことの影響によるものであります。今後、Siemens 社との新しい OEM 契約に基づく欧米での直販ビジネスが立ち上がってきますので、通期目標達成を目指しています。

一番下のメディカルロボット事業は、前期にバージョンアップを完了し、成長フェーズに入っており、好調に推移しております。

売上高の増減要因（地域別・品目別）



試薬売上が2桁伸長し、グループの成長をけん引

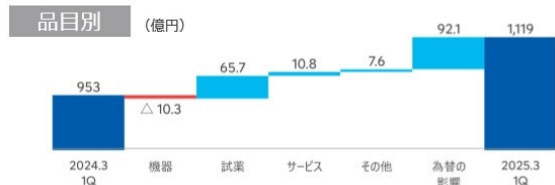
(億円)	2025年3月期1Q		前年同期比	
	実績	構成比	円ベース	現地通貨ベース
売上高	1,119.4	100.0%	117.4%	107.7%※
米州	316.3	28.3%	117.1%	103.2%※
EMEA	347.2	31.0%	120.7%	107.4%※
中国	195.2	17.4%	116.7%	106.3%※
AP	123.4	11.0%	126.0%	117.3%※
日本	137.1	12.3%	105.2%	-
機器	208.1	18.6%	103.7%	94.8%※
試薬	707.7	63.2%	120.8%	111.2%※
サービス	161.9	14.5%	119.2%	108.0%※
その他	41.5	3.7%	133.7%	124.5%※

※為替の影響を除いた円貨ベースの前年同期比伸長率



地域別の主な増減要因

米州	・ ヘマトロジー・尿分野の試薬が2桁伸長し、 増収を達成
EMEA	・ 直販化した地域の伸長などによりヘマトロジー試薬を中心に、2桁伸長し、 増収を達成
中国	・ ヘマトロジー・免疫分野の試薬が2桁伸長し、 増収を達成
AP	・ 各国のビジネスは好調に推移、機器・試薬ともに全分野において伸長し、 2桁伸長を達成
日本	・ ダイアグノスティクス事業は前期の反動により横ばいも、メディカルロボット事業が伸長し、 増収を達成



9

9 ページをご覧ください。地域別・品目別の売上高増減です。

地域別の売上高は現地通貨ベースで全ての地域で増収となり、力強い立ち上がりとなりました。特に AP は 4 期連続で 2 桁増収となり、インドをはじめとした新興国戦略は非常に順調に進捗しています。

品目別では、試薬が大幅に増収で、ヘマトロジー・尿・免疫分野の試薬は為替の影響を除いても 2 桁増収となり、ビジネスは好調に推移しています。

機器は対前年減収となっていますが、ヘマトロジー分野の機器だけを取りますと、日本と中国のいずれも 2 桁増収、EMEA と AP でも増収、米州のみ前期が大型案件も含め、特に好調だったことの反動があり、減収でした。

いずれにしても、ヘマトロジー分野の機器全体は増収となっていますので、機器全体が減収になっている主な要因は、先ほど申し上げた、中国の血液凝固検査機器 CN シリーズの現地生産品の出荷が 6 月に遅れたことによる影響であり、2Q 以降の機器売上は回復すると見込んでいます。

米州（地域別）



(Million USD)	2025年3月期 1Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	202.9	196.7	103.2%	117.1%
機器	43.2	52.4	82.5%	93.6%
試薬	102.9	91.9	112.0%	127.0%
サービス・その他	56.8	52.4	108.6%	123.1%



前年同期の機器売上好調の影響があるも、機器設置台数増加に伴う試薬の伸長により、増収

● 機器

- ✓ 前年同期に、北米で好調であったヘマトロジー分野および中南米で大型案件があった尿分野の反動により、減収
- ✓ 北米の受注は引き続き多く、また中南米のヘマトロジー分野は今期1Qも伸長のため、2Q以降は回復見込み

● 試薬

- ✓ ヘマトロジー・尿分野が好調に推移、2桁伸長を達成し、増収

10

10 ページをご覧ください。米州の状況です。

機器は減収しておりますが、前述のとおり、前期 1Q の機器が好調であった反動によるものです。

試薬は、中南米の伸長や昨年度におけるヘマトロジー分野のシェア拡大などにより、現地通貨ベースで 2 桁増収となり、米州全体で 3.2% の増収となりました。

中南米は 1Q からしっかり実績が出ていますし、北米で新たに始めた血液凝固分野の受注も獲得し始めています。

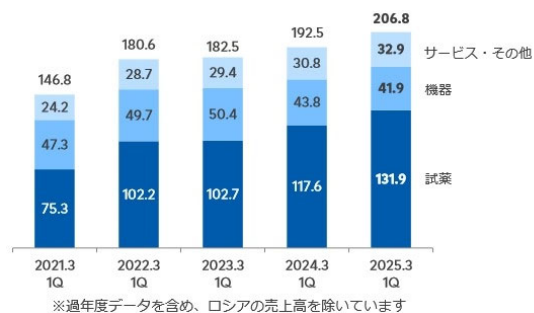
EMEA（地域別）

※過年度データを含め、ロシアの売上高を除いています



(Million EUR)	2025年3月期 1Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	206.8	192.5	107.4%	120.7%
機器	41.9	43.8	95.6%	107.4%
試薬	131.9	117.6	112.1%	125.9%
サービス・その他	32.9	30.8	106.8%	119.7%

売上高推移（Million EUR）



直販化したサウジアラビアなどにより、2桁伸長した試薬が機器減収を補い、増収

● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野においてXRシリーズの販売開始などもあり、ドイツやイギリスで伸長
- ✓ イタリアの直販切替の影響などにより、横ばい

● 試薬

- ✓ 直販化したサウジアラビアなどが好調に推移
- ✓ ヘマトロジー・血液凝固・尿分野が2桁伸長し、増収

11

11 ページをご覧ください。EMEA の状況です。

EMEA の売上は 7.4% の増収となり、好調に推移しました。

機器は横ばいとなっていますが、ヘマトロジー分野は問題ありません。新たに販売を開始した XR シリーズの効果もあり、ヘマトロジー分野の機器は増収していますが、この 4 月から直販化したイタリアにおける尿と血液凝固分野の売上の立ち上がりがスローだったため、一時的な要因であります。

試薬は 2 桁増収となり、ヘマトロジー・血液凝固・尿の各分野がいずれも好調で、2 桁の増収でした。直販化した効果が着実に表れているためであります。

中国（地域別）



(Million CNY)	2025年3月期 1Q	前年同期	前年同期比	
			現地通貨ベース	円ベース
売上高	908.8	854.9	106.3%	116.7%
機器	97.8	126.9	77.1%	84.7%
試薬	720.9	646.3	111.6%	122.5%
サービス・その他	89.9	81.7	110.0%	121.0%

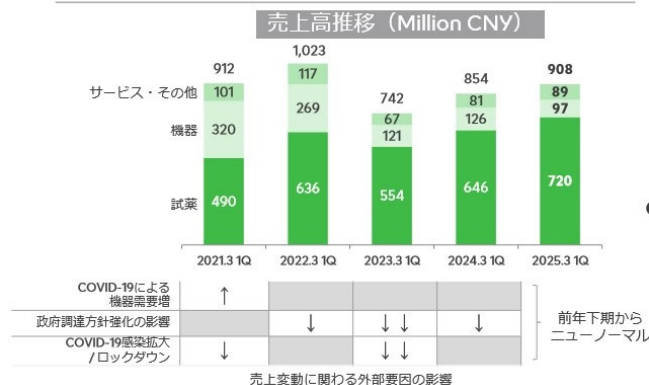
機器は血液凝固分野の出荷時期の影響により、減収も
ヘマトロジー分野の機器・試薬が好調に推移し、増収

● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野において現地生産製品の販売が好調に推移し、2桁伸長
- ✓ 血液凝固分野は、CNシリーズ（現地生産製品）の出荷開始が6月となり、減収
- ✓ 2Q以降は、現地生産製品による売上回復を見込む

● 試薬

- ✓ 受診者の増加などもあり、ヘマトロジー分野や免疫分野が好調に推移、2桁伸長を達成し、増収



12

12 ページをご覧ください。中国の状況です。

まず、左下のグラフの売上のアップダウンに影響を与えている外部環境について補足させていただきます。

当社の売上変動に関わる外部要因の影響は大きく 3 点です。左下に記載の COVID-19 による機器需要増、二つ目は政府調達方針、いわゆるバイ・チャイナポリシーの強化、3 点目は COVID-19 感染拡大やロックダウンによる検査数減少の 3 点であります。それぞれが売上に与えた影響は時期によって異なり、上下の矢印とその本数でプラスマイナスの影響をイメージとして記載させていただいております。

このように外部環境が大きく変化してきた中で、当社の売上高も大きく影響を受けましたが、昨年度下期以降の中国の外部環境は、前期 3Q の決算説明時にニューノーマルになったとご説明させていただいておりますとおり、その認識に変化はございません。今期 1Q の売上実績は、毎年 1Q は弱いという傾向から変化はない中で、6.3%の増収を達成いたしました。

機器は対前期 77.1%と減収になっていますが、ヘマトロジー分野は増収ですので、問題ありません。前期に現地生産品の品ぞろえを増やしたヘマトロジー分野の機器は 2 桁の増収と順調に伸びておりますが、先ほど申し上げた血液凝固検査機器の現地生産品が 6 月に遅れたということが影響と

して出ています。CN シリーズは 6 月以降順調に出荷されていますので、2Q 以降は回復する見込みです。

なお、ヘマトロジー機器の販売台数のうち、現地生産品の比率は 80% まで増加いたしました。試薬は病院の外来の受診者数が増加していることにより血液検査数が増え、ヘマトロジー分野を中心に 2 桁伸長となっています。

AP（地域別）

※ロシア売上高を含むデータへ変更

（億円）	2025年3月期 1Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	123.4	97.9	126.0% (117.3%)
機器	25.4	20.3	125.4%
試薬	84.0	68.7	122.4%
サービス・その他	13.8	8.9	155.3%

*()は為替の影響を除いた場合



医療インフラへの投資が継続しており、ヘマトロジー分野を中心に好調に推移し、2桁増収を達成

● 機器

- ✓ ヘマトロジー分野においてインドやオーストラリアを中心に好調に推移し、2桁伸長
- ✓ 尿・血液凝固分野はインドやタイなどの東南アジア、免疫分野はフィリピンが好調に推移し、大幅伸長

● 試薬

- ✓ ヘマトロジー分野においてインドや東南アジア、台湾が機器設置台数の増加に伴い、好調に推移
- ✓ 免疫分野は機器設置台数の増加やユニーク項目の採用拡大により大幅伸長するなど、全分野で増収

13 ページをご覧ください。AP の状況です。

AP 地域内の国別に見ても、分野別に見ても、ほぼ全てが非常に順調で、コロナ禍が始まった 2021 年 3 月期を底に、2 桁伸長の高い水準での成長が続いています。

シンガポールやインドネシア、フィリピンなど、さまざまな国が社会福祉や医療への予算配分を増やす発表をしており、今後も大きな成長が期待されます。

日本（地域別）



(億円)	2025年3月期 1Q	前年同期	前年同期比 円ベース
売上高	137.1	130.3	105.2%
ダイアグノスティクス事業	125.8	127.4	98.7%
機器	16.8	17.4	96.3%
試薬	86.9	88.5	98.2%
サービス・その他	22.0	21.4	102.7%
メディカルロボット事業	11.3	2.9	389.7%

ダイアグノスティクス事業は前年好調の影響もあり横ばいも、メディカルロボット事業の伸長により、増収

ダイアグノスティクス事業

● 機器

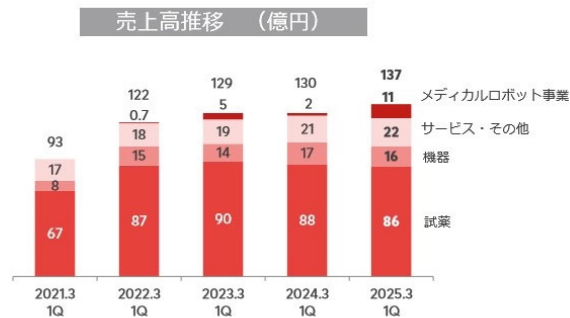
- ✓ ヘマトロジー分野は好調に推移し2桁伸長も、前年同期の尿分野・血液凝固分野の好調の影響により、横ばい

● 試薬

- ✓ 免疫分野で項目採用拡大による伸長も、横ばい

メディカルロボット事業

- ✓ 第1四半期導入台数：6台、累計台数：61台
- ✓ 導入台数および症例数の増加に伴い、サービス・消耗品（鉗子など）の売上が増加



14

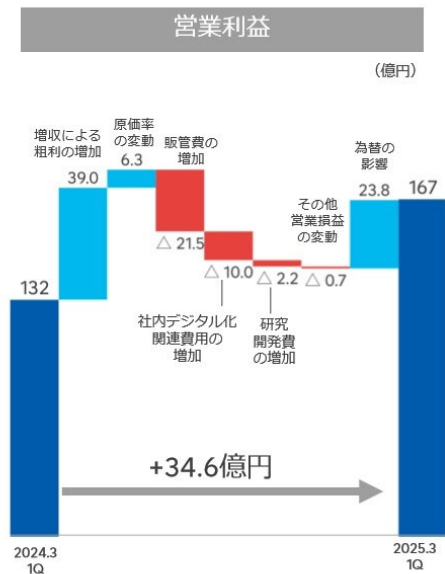
14 ページをご覧ください。日本の状況です。

ダイアグノスティクス事業は、前期に機器が好調だったことの反動や、試薬についてはヘマトロジー分野の精度管理用コントロール血液の定期出荷のタイミングなどの影響で減収しました。

その反面、メディカルロボットは、バージョンアップモデルが好評で、第1四半期に6台導入し、売上高 11.3 億円と、昨年 1Q の約 4 倍の実績となり、日本地域の増収に大きく貢献しています。

なお、ヘマトロジー分野の機器は前期から引き続き 2 桁伸長しており、XR シリーズの好調がけん引しています。

営業利益の増減要因



※下記数値・コメントは為替の影響を除く

- 増収による粗利の増加：+39.0億円
- 原価率変動による影響：+6.3億円（0.6pt改善）
 - ✓ 改善要因：プロダクトミックス 0.4pt、製品等の原価改善 0.5pt
 - ✓ 悪化要因：サービスコスト 0.1pt
- 販売管理費の増加：△21.5億円
 - ✓ 労務費：規模拡大に伴う人員増や単価増などによる増加：約13億円
 - ✓ 経費：規模拡大や販促活動による増加：約6億円
- 社内デジタル化関連費用の増加：△10.0億円
- 研究開発費の増加：△2.2億円
 - ✓ 製品開発への継続投資および薬事関連費用による増加
- その他営業損益の変動：△0.7億円
- 為替の影響：+23.8億円

15

15 ページをご覧ください。営業利益の増減要因です。

為替の影響は、一番下に記載のとおり、23.8 億円のプラス影響がありました。

その上に記載のコメントは為替の影響を除くもので、プラスマイナスの主な要因は記載のとおりですが、一部補足させていただきます。

原価率は、前年同期に対して 0.6 ポイントの改善でした。分解すると、ヘマトロジー分野の試薬売上の伸長によるプロダクトミックスの改善、および価格転嫁や原価低減による製品等の原価低減によるもので、一方、サービスコストは主に欧米の人員増加やインフレの影響を受けていますが、高止まり感があり、0.1 ポイントの悪化と、ほぼ横ばいの水準にとどまりました。

販売管理費のうち、労務費の増加が約 13 億円でした。人員増と人件費の単価アップによるものです。ちなみに、日本では今期も約 5%の賃上げを決定いたしました。

社内デジタル化関連費用は、前年同期に対して 10 億円増加となっています。

研究開発費も将来に向けた取り組みとして重要であり、中長期目線で継続的に投資をしています。

3. 成長戦略の進捗と取り組み

～ 新興国戦略・既存事業の強化・新規事業の拡大 ～

このセクションでは、成長戦略の進捗と取り組みについてご説明いたします。

新興国戦略



積極的に投資している地域を中心に2桁伸長を達成、高成長を継続

インド売上高推移 (億円)



ブラジル売上高推移 (Million USD)



中東・トルコ・アフリカ(META)売上高推移 (Million EUR)



■ インド新生産拠点が竣工、今期中の出荷開始に向けて稼働準備中



- ✓ 海外生産拠点では最大規模
- ✓ 機器・試薬の生産拠点としてインドでの事業展開を加速
- ✓ 倉庫・物流ハブ機能を有する

■ ブラジルの学会での様子



- ✓ 顧客の関心は非常に高く、展示ブースは盛況
- ✓ 顧客とのネットワーク強化により、さらなる事業伸長を目指す

17

17 ページをご覧ください。新興国戦略についてです。

インド、ブラジル、トルコやサウジアラビアにおいては、直販化や販売体制強化により急速に売上が伸長しており、今期 1Q においても 20 から 30% 台と、大きな伸長でスタートしています。

右上の写真ですが、インドで建設中であった新しい生産工場が竣工し、先週引き渡しが行われたところでもあります。試薬生産だけではなく機器の生産機能も併せ持つ工場で、いずれも今期中に稼働・出荷開始できる見込みであります。今後、規模拡大するインドでの事業展開を加速させていただきます。

右下の写真は、ブラジルでの学会の様子です。前期にトレーニングセンター開設など、顧客満足度を向上させる施策を行っておりますが、その効果もあり、大変盛況な展示ブースとなりました。当社の強みであるハイレベルなカスタマーケアの提供により、お客様の支持を深め、さらなる成長を目指します。

参考：新興国市場のポテンシャル



18

18 ページをご覧ください。これはご参考までに、新興国のポテンシャルを示した図です。

中長期の成長余地は非常に大きいことが分かります。

既存事業の強化（血液凝固分野）



ヘマトロジー分野で培った顧客満足度の高いサービスや販売チャネルを活かす

OEM契約への移行進捗

- 米国、欧州にて2024年4月より自社ブランドでの販売を開始、新規顧客の獲得が進む
- グループ2*の一部の国は、前倒しで販売を開始（スイスなど）*当初予定は2025年1月

顧客の声

ドイツ・ポーランドなどのご施設（他社から当社への切替含む）

*"The customers **trust the same excellence** that Sysmex has been known for in **Routine Haematology**"*

*"Great experience with Sysmex hematology systems and **high quality about Sysmex service**"*

*"Sysmex was the full panel of Siemens OEM reagents + the perspective of **the future Hyphen reagent roadmap**"*

19

19 ページをご覧ください。血液凝固分野の Siemens 社との OEM 契約開始後の状況です。

昨年 2 月に締結した Siemens 社との OEM 契約に基づき、予定どおり今年 4 月から欧米での直販が開始されました。これから四半期ごとに立ち上がってくる見込みです。

下段には、導入いただいたお客様からの声をご参考に付けさせていただきました。これまでヘマトロジー分野で培ってきた高い顧客満足度を実現するサービス&サポートや、販売チャネルを血液凝固分野にも生かして販売を加速させてまいります。

各分野においてグローバルでの取り組みを着実に展開

ヘマトロジー分野

● XRシリーズ

- ✓ 日本：購入需要の90%超を獲得し、圧倒的な存在感
- ✓ EMEA・中国：今期より本格販売開始
- ✓ AP：オーストラリアに続き、タイ、マレーシア、インドネシアで販促開始

免疫分野

● アルツハイマー病検査

- ✓ 中国：香港で販売開始
- ✓ 日本：保険点数取得に向けた活動継続
- ✓ 米国：大手検査センター（Labcorp）LDTは堅調に推移
- ✓ EMEA：欧州での薬事承認取得、販売準備開始

ライフサイエンス

● QIAGEN社とのグローバルアライアンス

- ✓ 遺伝子検査領域における市場展開を、それぞれが強みを有する地域で協力
- ✓ 将来的には製品開発における協業も検討

シスメックスのグローバルネットワークラボにおいて、QIAGEN社が製薬および研究機関向けに展開する臨床試験検体測定をシスメックスが受託測定することで、QIAGEN社のグローバルサービスをサポート



20

20 ページをご覧ください。ヘマトロジー、免疫、ライフサイエンスの各分野の進捗状況です。

ヘマトロジー分野では、XR シリーズの評価が高く、日本ではこのクラスの製品を購入されるお客様の 90%超を XR シリーズで獲得しています。

グローバル展開も着実に進んでおり、今期は EMEA と中国における販売を本格開始します。AP においては、タイ、マレーシア、インドネシアでの販促も開始されました。

免疫分野のアルツハイマー病検査については、記載のとおりであります。

ライフサイエンスについては、本日、先ほど QIAGEN 社とのグローバルアライアンス契約締結に関するプレスリリースをさせていただきました。遺伝子検査領域において、それぞれの強みを生かして市場展開を進めてまいります。

その一つとして、理研ジェネシスやシスメックス アイノスティクスなど、当社のグローバルネットワークラボにおいて、QIAGEN 社が製薬企業やアカデミアから依頼された検査を当社が実施し、サポートしていくことに合意しています。当然、将来的には製品開発における協業も検討予定で、そのスコープも入れた契約となっております。具体的な個別契約が決まりましたら、改めてご説明させていただきます。

新規事業の拡大（メディカルロボット事業）



日本の導入地盤構築および海外市場への導入準備は着実に進捗

● hinotori™の導入状況

- ✓ 全国の大学病院、基幹病院への導入が着実に進み、系列病院や一般病院への導入地盤を構築



● 海外展開計画

- ✓ 2024年3月期 シンガポールでの認可
- ✓ 2025年3月期 アジアへの展開、欧州への薬事申請
- ✓ 2026年3月期 欧州への市場参入、FDAへの薬事申請
- ✓ 2027年3月期 米州市場への参入開始



21

21 ページをご覧ください。メディカルロボット事業の進捗状況です。

昨年度のバージョンアップ後、着実に導入台数が増加しており、累計 61 台となりました。全国の大学病院や基幹病院への導入が進んだことにより、系列病院や一般病院への導入の流れが整ってきました。今後も順調に台数が増加していくと考えられます。

さらに、呼吸器外科適用の効果もあり、四半期ごとの手術数が順調に増加し、この 1Q では累計 5,278 件まで増えました。

海外展開については、シンガポールをハブとしたアジアでの展開や欧州での薬事申請準備も順調に進んでおります。

2025年3月期 業績予想 (2024年5月公表から変更なし)



(億円)	2025年3月期		2024年3月期		伸長率
	予想	構成比	実績	構成比	
売上高	5,100	100.0%	4,615.1	100.0%	+10.5%
売上原価	2,370	46.5%	2,190.1	47.5%	+8.2%
販売費及び一般管理費	1,519	29.8%	1,337.9	29.0%	+13.5%
研究開発費	350	6.9%	314.0	6.8%	+11.5%
営業利益	870	17.1%	783.8	17.0%	+11.0%
親会社の所有者に帰属する当期利益	550	10.8%	496.3	10.8%	+10.8%



● 売上高の伸長要因

- ✓ XRシリーズの上市効果（日本、EMEA、中国、AP）
- ✓ 血液凝固分野の直接販売開始（米州、EMEA）
- ✓ 米州：ヘマトロジー分野や中南米の伸長
- ✓ EMEA：直販化した地域の伸長
- ✓ 中国：現地生産移管した製品の拡販、検査需要の増加
- ✓ AP：インドを中心とした新興国の伸長
- ✓ 日本：手術支援ロボット（hinotori）の導入加速

● 原価率の改善要因

- ✓ 欧米での血液凝固試薬の販売開始
- ✓ 継続したコストダウン

● 販管費の増加要因

- ✓ 社内デジタル化や人的資本への投資
- ✓ 売上拡大に伴う費用の増加

● 営業利益の増加要因

- ✓ 増収や原価率低減による粗利益の増加

24

24 ページをご覧ください。連結の通期業績予想であります。

5月に公表させていただきました通期業績予想からの変更はありません。戦略に変更はありませんし、実行すべきこともクリアで変更はありませんので、今後の為替動向や外部環境の変化を注視しながらも、各種施策の推進により通期業績達成をまいります。

以上でご説明を終わります。

以上